

J S A 滋賀支部講演学習会

このたび日本科学者会議・滋賀支部では、小児科医師

として長年、障がいのある人の医療や福祉に取り組んでこられた会員の高谷さんによる講演学習会を行いますので、多数ご参加下さい。

日 時：2010年3月22日（月 振替休日） 午後1時30分～3時

場 所：草津まちづくりセンター **入場無料**

テーマ：「ヒト」はどのようにして「人間」になったか

—「水蛭子（ヒルコ）」、ネアンデルタール人、人類の起源から、人間の本性に迫る—

講 師：高谷 清氏（びわこ学園医療福祉センター草津）

「古事記」（712年）のはじめに次のような叙述がある。イザナミの「生める子は、水蛭子。この子は葦船に入れて流し去（う）てき。次に淡島（あわしま）を生みき。こも亦（また）、子の例（たぐひ）には入れざりき」とある。つまり神であるイザナギ（男神）とイザナミ（女神）が初めて人間として生んだ子は二人とも障害児であった。子を葦船に入れて捨て、「天つ神」は女がいばったからだを占い、男がいばるべきであるとしたとある。これは「日本書紀」（720）にも記述されている（蛭児）。このことから古代では、障害児を捨てたというように伝えられている。しかしこれは当時の為政者が障害児を捨てるようにさせたことをあらわしているのであり、事実はまったく逆で、障がい児は育てられ、平塚らいうが言うように「元始女性は太陽であった」。民衆は障害児である水蛭子を救い、神として祭り大事にした（13世紀「源平盛衰記」、14世紀後半「太平記」）。これがエビス（蛭子）である。このことを導入にして、とくにネアンデルタール人の障害者とのかかわりを説明し、さらに溯（さかのぼ）り、500万年前になぜ「人間」が生まれたのかを考察したい。これらのことから「人間」の本性が明らかになると考える。



ご講演終了後、滋賀支部個人会員分会第1回総会（結成集会）を下記の要領で開催します。

日 時：2010年3月22日（月 振替休日） 午後3時半～5時

場 所：草津まちづくりセンター

総会終了後、会場の近くで懇親会を開催します。事前申し込みは不要です。

日本科学者会議(JSA)滋賀支部

JSAは科学の総合的發展をめざし活動している全国組織です。URL:<http://jsa.gr.jp/>
滋賀支部の問合せ先：小島 彬 (TEL/FAX:077-589-3724)